

第9回 日本外来臨床精神医学会

The 9th Annual Meeting of The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry (JCOP)

学術大会 プログラム

日時 ● 平成21年2月22日(日)

場所 ● 東京医科歯科大学 5号館 4F 特別講堂



日本外来臨床精神医学会

The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry (JCOP)

精神科専門医認定試験合格証をお持ちの方は、必ずご持参下さい。

～ JCOPはC群：4時間以上30点～

ポイントを取得するには、会期の7割以上のご参加が必要です。部分的なご参加ではポイントに加算されませんので、ご注意ください。

第9回 JCOP 学術大会に向けて

平成21年2月開催の第9回 JCOP 学術大会に向けて一言ご挨拶申し上げます。

第9回大会会長石間祥生先生は、かつては東京医科歯科大学で教鞭をとられ、優れた研究業績をお持ちの研究者ですが、現在はそれらの経験を踏まえて臨床の第一線で活躍されている臨床医でもあります。また本学会の運営にも大変ご尽力いただいております、まさに打ってつけの大会会長であると思います。

第1回(2001)から第8回(2008)のメインテーマを振り返って見ますと次のようになっております。(括弧内は大会責任者、第3回以降は大会会長)

- 第1回：気分障害(外来臨床精神医学懇話会 CPO) (松下昌雄)
- 第2回：統合失調症(外来臨床精神医学懇話会 CPO) (松下昌雄)
- 第3回：Personality Disorders の外来治療をめぐって(竹村堅次)
- 第4回：外来精神医学の Identity - 歴史的認識をふまえて(松下昌雄)
- 第5回：ストレス関連障害および適応障害の診断と治療(関谷 透)
- 第6回：児童・思春期の精神医学的課題にどう取り組むべきか(石山淳一)
- 第7回：精神科外来における新しい病態と新しい治療法(鈴木二郎)
- 第8回：気分障害再考 - 臨床精神科医のスキルの向上のために - (大塚明彦)

さて、第9回学術大会の石間大会会長は、メインテーマに「精神科外来のこれから」(仮題)を取り上げられました。はじめの第1回と最後の第8回に気分障害が取り上げられているのは現在の精神科外来の実情をよく反映していると思われそうですが、第1回から第8回を通してみますと認知症(痴呆症)、アルコールを含めた薬物依存を除けば現在精神科外来で問題になるような精神障害はほぼ出揃っております。それを踏まえ次回に「精神科外来のこれから」をメインテーマに選び、現時点で外来臨床精神医学の在り方を前向きに探求しようとする姿勢はまさに当を得たものと共感を覚えます。この機会に多くの会員が一堂に集って将来に向けての外来精神医学の在り方、課題について議論を戦わせる絶好の機会と思われしますので、奮ってご参加いただきたいと思います。

本年10月30日～11月2日の間、都市センターホテルで第13回環太平洋精神科医会議が開催されますが、JCOPにも協力の依頼があり、よい機会なので「環太平洋諸国の精神科クリニックの現状」と題するシンポジウムを企画しました。鈴木二郎常任理事がオーガナイザー、座長となって、日本、アメリカ、韓国から5名のシンポジストとディスカッサントが集い情報交換をいたしますが、JCOPからも世界に向かってわが国の現状あるいは主張を発信したいと思います。是非ご参加下さい。

なお、次々回(平成22年度)は本学会設立10周年記念大会となり、したがって次回はその地固めをする大切な大会でもあります。折りしも本学会最初の選挙による代議員、役員(理事、監事)の選挙が進行中で、本年中には新代議員・新役員が出揃い、次回総会(平成21年2月)で承認を受ければ次期(平成21、22年度)からは民主的に選ばれた代議員、役員によって学会が運営されることとなります。そういう意味からも第9回学術大会・総会は意義のある大会となると思います。以上の意味合いをご斟酌いただき、一人でも多くの会員および本学会の主旨にご賛同いただける精神科医の参加を切に期待する次第でございます。

(2008年10月)

大会開催のご挨拶

大会会長
石間
祥生

JCOP 学術大会も9回目となりました。これまで様々なテーマを取り上げ活発な御討論を頂いて会員の一年間の課題として参りました。今回は現在の精神科外来の実情を踏まえて「これから」の診療に役立てたいと思いましたので敢えて「精神科外来のこれから」をテーマにさせて頂きました。

社会保障制度が溶融し、既存の国家体制が崩壊し始めて頼むに足らなくなった世の中で、目まぐるしく変わる社会情勢に取り残された人々が、社会不安に曝されて、為す術もなく右往左往している現状では、当然の事ながら、様々な患者が精神科外来を訪れます。しかしその多くは嘗ての精神科外来には来なかったタイプの人々です。そして本来の疾患の単なる一症状に過ぎないものが立派な疾患単位として一人歩きし始めました。現代の世相がそうである様に、情報化社会のポピュリズムの一環として精神科も患者のニーズに応える「医商い」と化し始めました。

皆さんは「病気は存在しない、唯、患者が居るだけだ」と云った、ドイツの病理学者グルーレの言葉をご存知でしょうか。病気は、自然科学的な事実判断ではなく、患者の注文から生じた価値判断だからです。この事が精神科外来を混雑させた主因です。病識が有るか無いか以前に、どれだけの人が精神とは何かを認識しているでしょうか。その曖昧さに乗じ、ポピュリズムに走る余り、患者が増え、治療が御座なりで、不適切な治療に依って病像を歪められた人々がドクターショッピングして命懸けで巷を彷徨っております。

人は弱い存在です。何か起ると人間存在の不確かさ(存在の乏しさ)に立ち返って不安緊張状態に陥ります。水や食べ物や空気さえもが、最早、安心して得られない時代となりました。人が安心して過ごせる環境、社会的資源とともにより好い医療を提供したいものです。

今回、特別講演「精神医学のこれから－脆弱性の研究からレジリアンスの研究へ」をお引き受け下さった八木剛平先生に御礼申し上げます。続くシンポジウムでは、経験豊かな先生方に「今日の精神科の臨床」をテーマに精神科の現状を討論して頂きます。参加者の皆さんと明日に向かって活発な討論が出来る事を楽しみにしております。

また、この学術大会を開催するに当たって、ご尽力下さいました松下昌雄理事長以下、理事の先生方、実行委員会の先生方に感謝いたします。また、様々の役割を果たして頂いた先生方にも心から御礼を申し上げます。

(2008年10月)



第9回日本外来臨床精神医学会(JCOP)学術大会(2009)

大会会長：石間 祥生(石間クリニック院長)

大会副会長：里村 淳(富士見メンタルクリニック院長)

市川 光洋(御茶ノ水医院院長)

実行委員会

委員：浅川 雅晴、五十嵐良雄、石間 祥生、石山 淳一、市川 光洋、市橋 秀夫、
榎本 稔、荻本 芳信、大塚 明彦^{*}、木村 直人、里村 淳、澤 温^{*}、
鈴木 二郎^{*}、砂山秀次郎、関谷 透^{*}、藤本 英生、堀江 光子、前久保邦昭、
松下 昌雄^{*}、松蘭理英子 (※オブザーバー：JCOP 理事長、副理事長)

日時：平成21年2月22日(日) 10:00～16:30(情報交換会：17:00～19:00)

場所：東京医科歯科大学 5号館4F 特別講堂

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL：03-3818-6111

参加費：会員(医師)1万円、非会員(医師)1万円3千円、パラメディカル5千円

情報交換会費：3千円

学術大会プログラム

メインテーマ

「精神科外来のこれから」

総合司会：岡島加代子(オフィス ロブソン)

理事長挨拶 松下 昌雄(帝京大学客員教授・西落合診療所院長) 10:00～10:10

Opening Remarks 石間 祥生(石間クリニック院長) 10:10～10:20

I. 一般演題(発表15分、討論15分) 10:20～11:20

座長：砂山秀次郎(長津田メンタルクリニック院長)

松本 誓子(祐天寺松本クリニック院長)

1 「USPT(Unification of Subconscious Personalities by Tapping Therapy)
を応用した過去世・未来世療法」

小栗 康平(早稲田通り心のクリニック院長)

2 「初診時、私は患者さんに何を話しているか」

大塚 明彦(大塚クリニック院長・東京歯科大学臨床教授)

昼休み(11:20～11:40)



総 会(代議員で構成 — オブザーバーの参加も可) 11:20～11:40

理事長挨拶: 松下 昌雄

議 事: 議長(大会会長)、議事録署名人選出

平成20年度事業報告(案)・収支決算および財産目録(案)

平成21年度事業計画(案)・収支予算(案)

会則・選挙規則一部改定、代議員新役員承認、次期大会会長指名、他

II. 会長講演(プレナリー・セッション)(60分)◎出席者には昼食用意◎ 11:40～12:40

座 長: 松下 昌雄(JCOP 理事長)

「精神医学のこれから — その問題点の一考察 —」

石間 祥生(石間クリニック院長)

III. 特別講演(60分) 12:50～13:50

座 長: 石間 祥生(石間クリニック院長)

「精神医学のこれから — 脆弱性研究からレジリアンス研究へ」

八木 剛平(元慶應義塾大学客員教授、現翠星ヒーリングセンター おおぞらクリニック院長)

IV. シンポジウム(140分) 14:00～15:30

テーマ

今日の精神科臨床

座 長: 里村 淳(富士見メンタルクリニック院長)

広沢 郁子(メンタル神田クリニック院長)

1 「『病名』の認知度と『病態』の理解度 — 精神疾患治療のフォロー —」

川口 哲(ストレスクリニックウイング管理者・長崎ウエスレヤン大学客員教授)

2 「逃避型うつ病を通して — 外傷反応と社会変化の視点から —」

高沢 悟(高田馬場新澤ビルクリニック院長)

3 「うつ病は心のかぜの光と影 — 薬物療法の視点から —」

前久保邦昭(前久保クリニック院長)

総合討論(50分) 15:30～16:20

Closing Remarks 里村 淳(富士見メンタルクリニック院長) 16:20～16:30

第2回 JCOP 理事会 東京医科歯科大学 B棟16F 第1ゼミナール室 16:30～17:00

V. 情報交換会(含懇親会) 17:00～19:00

場 所: オークラカフェ&レストラン メディコ 東京医科歯科大学 B棟16F

司 会: 浅川 雅晴(浅川クリニック院長)



I-1 一般演題

USPT (Unification of Subconscious Personalities by Tapping Therapy) を応用した過去世・未来世療法

小栗 康平 (早稲田通り心のクリニック 院長)

過去世療法とは、現世におけるトラウマよりもさらに遡って過去世におけるトラウマを解明し、現世に影響を及ぼさないように処理をするというもので、アメリカの精神科医で大学教授という要職にありながらも勇気をもってその治療法を公開したワイス博士が有名である。一方未来世療法とは、未来世に問題がある場合に、現世の考え方・生き方を変えることで未来世での問題を解決し、より高次の学びが出来るように未来世を変えるというもので、これもワイス博士の功績である。これらは輪廻転生を認めることが前提の治療法なので、死後の世界がないと信じている人にとっては懐疑的にならざるを得ないだろう。

しかし、私は USPT を応用した方法を用いて、これらを催眠による方法より短時間で導入し臨床で実践してきた。その実際の治療場面をビデオで供覧する。



II 会長講演

精神医学のこれから — その問題点の一考察 —

石間 祥生 (石間クリニック 院長)

現在の精神科外来の混乱は、我々が扱っている患者さんの「精神とは何か」を識らないまま診察しているところにあります。ドイツから精神医学を学んだ先輩たちは18世紀末に端を発した科学的精神医学 — 疾病分類 — 記述精神医学 — 疾病単位 — 精神病理学の流れの中で、一貫して精神現象を Seele (心) と Geist (精神) とに区別して理解しておりました。

ところが不幸にも東洋文化圏、特にわが国では精神と心の区別がありません。従って、そのような思考形態の習慣も有りません。それは英米語文化圏でも同じです。心は禅宗では言葉に表現出来ない世界として描き出されます。この問題を L.Klages の言葉で表現学の側面から、述べてみたいと思います。

また最近では生物学的精神医学が主流になりつつあり、病気に果たした役割には目を見張るものがありますが、大脳生理学を識らない臨床医が下手に手を出すと、唯の科学信仰に終わる惧れがあります。その為に患者さん達が二重の不幸を背負わされている現実に就いても触れてみたいと思います。



Ⅲ 特別講演

精神医学のこれから — 脆弱性研究からレジリアンス研究へ

八木 剛平 (元慶應義塾大学客員教授、現翠星ヒーリングセンター おおぞらクリニック院長)

レジリアンス (resilience) は弾性エネルギーや反発力を意味する物理学用語であった。それが20世紀の後半になってまず臨床心理学や小児精神医学の分野で、次いで90年代からは PTSD の心理社会的・生物学的研究において、21世紀に入ると更にさまざまな領域で用いられ始めた。“Natural resilience” の用語や、回復力・しなやかさ (WHO・西園)、家族のストレス耐久性 (齊藤)、脳のストレス抵抗力 (丹生谷)、死生学における復元力などの訳語から、演者はこの動向に自然治癒力概念の復権と新たな発展の可能性を予感している。いずれにせよこの概念の普及・浸透と精神疾患の発病防御・回復促進因子に関する生物学的研究は、脆弱性研究に代表されるこれまでの発病論的研究への偏向を正しつつ、精神科治療を初め広く精神保健福祉領域に新しい知見をもたらすと期待される。本学会の会員諸兄が、今回のメインテーマである「精神医学のこれから」を考える際のご参考になれば幸いである。



IV-1 シンポジウム

『病名』の認知度と『病態』の理解度 — 精神疾患治療のフォロー —

川口 哲 (ストレスクリニックウイング管理者・長崎ウエスレヤン大学客員教授)

「うつ病」の啓発活動が行政ならびに企業の思惑のもとに進み、一般人の「理解」が深まることなく「病名の認知」が広まっていった。それに「遅れてはならじ」とプライマリードクターや精神科類似医等が見よう見まねで診断治療を行っている。SDS等のスケールを来院者に記入させ、「うつ病」と診断し、マニュアルに従い「副作用の少ない抗うつ剤」を少量または中等量投与し、症状が悪化しても「気の持ちよう」「わがまま」などと説明し、時に激励したり叱責したりしている（治療者自身は善意と思っている）。

当院は西の果て長崎の島原という僻地に精神科病院のサテライトクリニックとして7年前に開設された。敷居の低さから一般医で加療中であった患者が紹介状もなく来院される事がしばしばある。他院でスルピリドを300mg投与され、フラフラになった方やパロキセチンを初回から20mg投与され食欲低下がひどくなった方等様々である。その実例を紹介し啓発活動の本来のあり方に言及したい。



IV-2 シンポジウム

逃避型うつ病を通して — 外傷反応と社会変化の視点から —

高沢 悟 (高田馬場新澤ビルクリニック院長)

近年うつ病の軽症化・遷延化といった病像の変化とそれに対する治療的対応が問題視されている。これら若年を中心としたうつ病像は、早くは77年に、広瀬によって「逃避型抑うつ」としてプライドが高く自己完結型で顕著ではないがヒステリーの要素を持ったものとして報告されている。発表者は都心部の比較的若年者の多い、いわゆるビル・クリニックを訪れる近年のうつ病患者について、広瀬をはじめとする非定型うつ病概念の変遷を辿りながら、身体表現性障害や不安障害、あるいは回避性人格障害などの並存の問題、双極性障害との関連、文化、時代の変化に伴う心理社会的な要因やコミュニケーションの変化などに注目し、若干の考察を行った。また、産業精神保健分野でもうつ病による長期休職者や職場復帰の困難さが社会問題化しているが、この点についても、うつ病の病像の変化と心理社会的要因からの検討を加えてみたい。



IV-3 シンポジウム

うつ病は心のかぜの光と影 — 薬物療法の視点から

前久保邦昭 (前久保クリニック院長)

「うつ病は心の風邪」を旗印に、それまでひっそり存在していたうつ病が世間一般に認知されるようになった。その一般大衆への啓蒙と抗うつ薬の一般化を先陣を切って推し進めていったのは SSRI を中心とする新規抗うつ薬であったといえる。もちろんそれは精神疾患に対するスティグマ減弱に大きく寄与し、プライマリケアにおける新規抗うつ薬の使用を一般化した。その光の部分は言うもがなであるが、今回はその影の部分について薬物療法の視点から述べたい。

新規抗うつ薬の市場原理に基づくマーケティングに於いてプラス面の強調とマイナス面における情報不足があるのではないだろうか。英国に端を発した SSRI における自殺関連行動の惹起は、わが国においても 18 歳未満のパロキセチンの投与禁止という事態となった。SSRI の中枢神経刺激によるアクチベーションシンドロームや離脱症状、また他剤との相互作用などマイナス面に関しバランスのとれた情報提供と周知が必要と思われる。

JCOP 第9回学術大会 参加申込書

〆切：平成21年2月9日〇月

お申込み先 FAX：043-301-0821

又は E-mail：9jcop090222@otsuka-clinic.org

平成 年 月 日

① ご氏名 <会員(医師)・非会員(医師)・パラメディカル>

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

② ご氏名 <会員(医師)・非会員(医師)・パラメディカル>

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

③ ご氏名 <会員(医師)・非会員(医師)・パラメディカル>

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

情報交換会 ご出席(名) ・ ご欠席
(必ずどちらかに〇をお願いします)

※当日、このプログラムをお持ちください。参加費は当日で結構です。
また、当日のご入会も受け付けております。

会場のご案内



会場までのアクセス

■JR線

御茶ノ水駅下車……………徒歩5分

■地下鉄

御茶ノ水駅下車(丸の内線)……徒歩2分

新御茶ノ水駅下車(千代田線)…徒歩10分

■バス

●東43系統 都バス(荒川土手操車場—東京駅北口間)
……………御茶ノ水駅前下車

●茶51系統 都バス(駒込駅南口—御茶ノ水駅前間)
……………御茶ノ水駅前下車

東京医科歯科大学医学部附属病院

〒113-8519 東京都文京区湯島1丁目5番45号

TEL: 03-3813-6111(代表)

ホームページ <http://cmil2.med.tmd.ac.jp/>

印 刷:  株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL: 096-382-7793 FAX: 096-386-2025



日本外来臨床精神医学会

第9回日本外来臨床精神医学会 (JCOP) 学術大会

大会会長：石間 祥生 (石間クリニック院長)

主 催：日本外来臨床精神医学会

〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東3-20-11-3F

TEL&FAX：043-301-0821

E-mail：9jcop090222@otsuka-clinic.org

HP：http://jcop.xsrv.jp/